

2025年度図書館研究奨励賞選考についての報告

図書館研究奨励賞選考委員会

図書館研究奨励賞は、故森耕一理事長が拠出された基金によって1990年度に設立されたもので、機関誌『図書館界』に掲載された「論文」、「現場からの提言」、「研究ノート」を作成した若手あるいは中堅の研究者が授与対象となっている。

「現場からの提言」、「研究ノート」が選考対象となっていることから明白なように論文の体裁の完成度を評価するものではなく、「研究」そのものを評価するものである。特に研究の「革新性」、「伸びしろ」、「ひらめき」、「オリジナリティ」、「現場に役に立つ」ことなどを選考基準としている。基礎的な研究ももちろん選考対象となるが、当研究会の図書館改革に関する実践的役割から実務に資する点が評価されることが特徴である。

選考対象は選考時当研究会の会員であって、「若手あるいは中堅の研究者」である。研究実績のあるベテランの方、例えば論文の「謝辞」に氏名が掲載されている方や名誉教授の方、ある程度の年齢で正規の教員の方、また他の学会等の受賞者などは除外される。2025年度の選考対象となる論文等は、2023年11月号(75巻4号)から2025年9月号(77巻3号)に掲載されたものである。

賞の選考委員会は、例年6月の理事会において承認される5名で構成される。今年度は前担当理事である立命館大学の久野和子先生、理事である京都橘大学の嶋田学先生、國學院大學の須永和之先生、前選考委員会委員長である桃山学院大学の前川和子先生、委員長の常世田良の5名であった。賞の選考は、選考委員会と会員の推薦によって行われることから、例年『図書館界』5月号に、奨励賞の主旨と投稿依頼を掲載し、11月号では当該年度の自薦・他薦の依頼を掲載した。

選考作業は、例年概ね以下の状況である。

10月に上記条件に合致する掲載論文等を選択。各選考委員は1月中旬に各自の評価を担当理事へ提出し、その後各評価をもとに討議し、総合評価の合算によって受賞者を決定する。

2月の理事会において選考委員会の選考結果が承認される。

2025年度においては、『図書館界』77(1)に掲載された「公立図書館における「地域情報資源創出継承活動」の量的分析」(論文)の筆者である仲村拓真氏が授賞者として選出された。表彰式は3月7日の研究大会において挙行された。

選考委員による講評

ほぼ全委員から以下のような点が評価された。重要性が認められてはいるが全国の実態が明らかでなかった分野について、従来の単なる実践報告や事例紹介ではない大規模アンケート調査による実証的かつ丹念な分析による労作であること。また市民との協働など従来の調査にはない新しい切り口による分析が行われていること。一方でこれから研究の発展が期待される点として、地域の博物館や資料館、公文書館などが行っている地域情報資源の収集や諸活動による図書館への影響、あるいは連携などに関する調査分析の必要性、今回の研究の内容においては量的分析が主であることから、より質的研究の余地が残されていることなどが指摘された。

(2025年度、日本図書館研究会図書館研究奨励賞選考委員会：

委員長・常世田良)